

令和7年5月23日

～金沢八景駅から貝山緑地を歩く～

5月23日（金）曇天の中、涼しく歩きやすい気候で70名の参加で実行しました。金沢八景駅を9時30分に出発し平潟湾の北条政子が近江竹生島弁財天を勧請し祀ったと伝えられる**弁天島神社**を左に見、広重の浮世絵、金沢八景の面影が残る風景。又、野島に渡る**夕照橋**を横に見ながら入り江を歩き、昨年、日本一になった横浜ベイスターズの選手寮と練習グランドの**ドックオブベイスターズヨコスカ**を見学しました。このグランドの環境は大きさから芝まで本拠地である横浜スタジアムのまったく同じ環境に作成されているとの事です。そのあと、今は埋め立てられ夏島・烏帽子岩の跡形もない、旧帝国海軍航空隊敷地跡の工場群（日産自動車工場など）の敷地に**「東京湾第三海堡」**の移設保存した遺構を見学しました。明治時代から東京湾要塞計画のもとに三つ目の海上要塞として浦賀水道内に建設され大正10年に完成し、大正12年の関東大震災で3分の1が水没に会い力を発揮できずに破棄されました。航海の安全のため平成12年からの撤去工事で陸上に引き上げ遺構として横須賀市夏島町（一部は横須賀市平成町「うみかぜ公園」内）に保存展示されました。そのあと、宮殿のような「リサイクルプラザ アイクル」により、ゴール**「貝山緑地」**では晴れ間になり展望台からの景色も最高！周辺で食事を取り、満足感と心地よい疲れでそれぞれ帰宅に向かいました。※「東京湾第三海堡遺構」の案内には「アクションおっぱま」のボランティアの方々にご尽力いただきまして本当に有難う御座いました。

歩こう会実行委員会 中山 雄二

金沢八景駅～貝山緑地(追浜)を歩く

- 集合・解散 2025年 5 月 23 日(金) 9:30 金沢八景駅前 集合 12:30 解散
- コース 金沢八景駅—平潟湾(琵琶島神社-野島運河-夕照橋)—室の木(トイレ休憩)—ドックオブベイスターズヨコスカ—横須賀北体育会館(トイレ休憩)—東京湾第三海堡遺構—リサイクルプラザ アイクル(トイレ休憩)—貝山緑地 (解散)

1. 平潟湾

●琵琶島神社

1180 年(治承 4) 北条政子が近江竹生島弁財天を勧請し、瀬戸神社前の海中に島を築き祀ったと伝わる。島の形が琵琶に似ていたところから琵琶島と名付けられた。御祭神は市杵島姫命(いちきしまひめのみこと)。

●野島運河

乙舳と野島の間を流れる運河のこと。「乙舳の運河」とも呼ばれる。現在帰帆橋と野島橋の二つの橋が架かる。以前の野島は乙舳地区とつながっていて、平潟湾と東京湾とを分離する位置関係にあった。太平洋戦争が起ると野島の軍事要塞化がすすめられ、野島水道(野島南側に流れる水路)の所に野島側の掩体壕と横須賀側の海軍施設とを結ぶ道路が建設された。これにより野島水道が塞がれてしまったため、1944～45年(昭和19～20)野島漁師の代替水路として開削されたのが野島運河である。

●夕照橋

野島町と室の木との間にかかる橋。橋が架かる以前は渡し舟で行き来していた。現在の橋は昭和26年の完成。それまで架けられていた橋は昭和19年開架の八紘橋。これが水害で流出したため改架され、名称も夕照橋と改められた。金沢八景の一つ「野島夕照」(のじまのせきしょう)から、かつては「せきしょうばし」とも呼ばれていた。

2. ドックオブベイスターズヨコスカ

2019年7月追浜公園内にオープンした横浜 DeNA ベイスターズ・ファームチームの総合練習場。横浜ベイスターズ時代は永浦町(田浦・按針塚)に練習場があったが、試合のある横須賀スタジアムから20分もかかることから、ファーム拠点の一体化を図るためこれを廃止し、横須賀スタジアムの隣に移転したもの。

施設は選手寮(青星寮)、屋内練習場、屋外練習場からなる。屋外練習場は一軍本拠地の横浜スタジアムのグラウンド形状、寸法、人工芝をモデルに忠実に再現している。

「ドック」(船渠)の名称は、開国の地、造船の街として知られる横須賀を象徴する名称であることから名づけられた。

3. 東京湾第三海堡遺構

明治から大正にかけて、首都東京を防御するために東京湾口部に「海堡」と呼ばれる海上要塞が建設された。砲台を設置するために設けられた人工の島で、千葉県富津岬側から観音崎にかけて第1～第3の海堡が建設された。そのうちの横須賀側にある第3海堡は1892年(明治25)に着工し1921年(大正10)に完成している。実に30年の歳月をかけて完成したものが、2年後の大正12

年9月の関東大震災により壊滅的被害を受け海中に没してしまった。後年これが暗礁化して航路障害となったため、2000年(平成 12)に引き上げ作業が行われ、現在地に遺構として保存展示されている。

●第三海堡の位置、水深等

第三海堡は、本牧と木更津を結ぶラインのほぼ中間に造られた。水深約40mの所に最大幅167m、全長270mという大規模な要塞だった。富津岬と観音崎の間は約 6.5km、当時の大砲の有効射程距離は約3kmであったことから、第二海堡と走水それぞれの間も約2.6kmの間隔で築造された。しかしここは水深も約40m と他の海堡よりはるかに深く、潮流の激しい浦賀水道にあったため建設は困難を極め、完成まで30年の長きを要した。

関東大震災によりその3分の1が水没し暗礁化してしまった海堡は、その後航行する船舶の大きな障害となった。昭和49年以降26年間に東京湾の海難事故が15件発生し、そのうち11件が第三海堡にかかわるものだったという。こうした経緯から2000年(平成12)構造物の撤去作業が開始され、2007年(平成19年)8月完了した。

4. リサイクルプラザ アイクル

横須賀市(人口37万人)の資源ごみ処理施設で、2001年4月に稼働。リサイクル施設としては国内最大規模を有する。資源ごみのリサイクルにより、ごみの減量化、資源化や環境への負荷低減効果を図ろうとするもの。「アイクル」とは環境に対する「愛」とリサイクルの合成語。

本施設の主要な役割は次の二つ。

- ① 家庭から出る資源ごみを選別・圧縮・梱包・一時保管をして、リサイクル業社に引き渡すこと。
- ② 再生家具の提供やリサイクル体験教室の実施などを通して、市民へのリサイクル意識の啓発を行うこと。

5. 貝山緑地

杏の里として知られ、約1000本が植樹されている。3月中旬から下旬辺り、桜の開花前に淡紅色の花をつける。夏島を中心に埋め立てられた現在の日産自動車追浜工場一帯は、旧横須賀海軍航空隊がおかれていたところで、緑地内にはあちこちに関連の記念碑が立っている。頂上には展望台がおかれていて、東京湾が一望できる。

●貝山地下壕

貝山緑地の下には太平洋戦争のさ中、昭和 19 年頃に掘られた総延長約2kmの地下壕が残る。これは米軍の空襲から守る目的で、司令部機能の移設や物資の補完等に使用された。

●横須賀海軍航空隊

創設は1916年(大正5)4月1日、帝国海軍初の航空隊として横須賀市追浜に開隊した。横須賀鎮守府の防空並びに航空隊要員の教育、錬成、新型機の実用実験等を目的とした。

1918年(大正7) 海岸の埋め立て工事が開始され、1926年(大正15)3月 追浜飛行場が完成。

1930年(昭和5) 6月 「海軍飛行予科練習生」(通称「予科練」)の1期生79名が入隊。

1939年(昭和14)予科練が「霞ヶ浦海軍航空隊」へ移転(増員により追浜では収容不可のため)。

1941年(16)12月 太平洋戦争開戦。

1944年(19) 2月 実戦配備につく。

1945年(20) 8月 終戦により廃止。

以上

R 7 年 5 / 2 3 日 歩こう会の模様



「東京湾第三海堡機構」 集合写真 1



「東京湾第三海堡機構」 集合写真 2



「東京湾第三海堡機構」写真 2



「東京湾第三海堡機構」写真 3



「貝山緑地 展望台」



「貝山緑地」 昼食の模様